

堀田龍也先生「子どもにとって最適の学びの場をつくるために」

AI 時代とは、単に AI を使用できる時代という単純な意味ではなく、相当のことを対応できるようになった AI が存在する時代に人々は何をすべきかという問いが突きつけられている時代なのだと思います。

AI が効果的に機能するためのデータ基盤やネットワーク基盤の整備が重要です。安西先生も指摘したように、教育分野ではこれらの整備が遅れており、課題が多く残っています。このような中で、教師が一部の役割をテクノロジーに任せる可能性が議論されていますが、「ロボット教師」という概念には多くの抵抗感があります。

生成 AI（例：ChatGPT）は迅速にイラストを作成したり、問題を生成する能力を持っていますが、その成果物が理想的かどうかは別問題です。AI 技術の活用は教育現場の負担を軽減する可能性を秘めています。教育委員会によってはその使用を禁止するところもあり、導入には慎重な議論が求められています。

ロボット教師の導入事例とその課題

実際に、広島県三次市では「ユニコーンロボット先生」という AI ロボットが複式学級で導入されました。ロボット教師は授業のポイント解説や問題の出題、答え合わせを行うことができます。特に僻地校では教師の負担軽減として期待されていますが、ロボットの形状が子どもたちに与える影響や、GIGA 端末でも代替可能な機能の範囲についてはさらなる検討が必要です。このような取り組みはまだ初期段階であり、実際の効果や費用対効果についての評価は今後の課題です。



AI とロボットでは代替できない人間教師の役割

AI やロボットが教育現場で果たす役割が増える一方で、人間の教師にしかできないことも明確です。例えば、子どもたちの感情に寄り添い、モチベーションを引き出すことや、対人関係の構築、個々の生徒の成長に応じた柔軟な対応は AI には難しい課題です。さらに、AI が最適な問題を提供しても、生徒自身が学びを主体的に進める意欲を持たなければ、学習効果は限定的です。これは、AI ドリルが一時的な興味を引いても、長期間の学習継続には限界があることから明らかです。

また、AI が生成する問題や情報の質を見極める力、特にフェイクニュースの識別能力などは、教師の指導が不可欠です。教育は単なる知識の伝達ではなく、批判的思考力や創造性を育む場でもあります。これらは AI が模倣しにくい領域であり、人間の教師の重要な役割です。

AI 時代の教育インフラと未来への課題

GIGA スクール構想により全国の学校に端末が配布されましたが、ネットワーク環境の不備が授業の質に影響しています。文部科学省の調査によると、必要なネットワーク速度を満たしている学校はわずか 20%に過ぎません。インフラの整備は、AI 技術の利活用とも直結しており、教育委員会や自治体の責任が問われています。

AI 技術の進展は、個別最適な学びの実現に大きな可能性があります。最終的には生徒自身が主体的に学ぶ力を育むことが求められます。AI はあくまで学びを支援するツールであり、学びの主体は生徒自身です。そのため、教師は AI を効果的に活用しつつ、生徒が自らの学びを深めるためのサポートを行う役割が重要です。

AI 時代における教育は、AI やロボット技術の導入によって効率化が進む一方で、人間の教師が果たすべき役割も再定義されています。AI が得意とするデータ処理や問題生成と、人間教師の強みである対人関係の構築や生徒の動機付けをバランスよく融合させることが、これからの教育の鍵となるでしょう。教育の本質を見失わず、子どもたちにとって最適な学びの環境を整備することが求められています。